

天 皇 杯

老いも若きもユイマール、みんなが元気な渡慶次集落

と け し
受賞者 渡慶次集落

おきなわけん なかがみぐん よみたんそん と け し
(沖縄県中頭郡読谷村渡慶次)

■ 地域の沿革と概要

1 . 立地条件

読谷村は沖縄本島中部の西側に位置し、東は海拔200mの読谷山岳を頂点に、南に概ね緩やかな丘陵傾斜地、西は海拔130mの座喜味城跡がある丘を頂点に、カルスト台地が広がり段丘をもって海岸へ続いており、中心部から東西約 5.7km、南北約 5.8kmの広がりである。

北は恩納村、東は沖縄市、南は嘉手納町に隣接している。

渡慶次集落は、人口1,498名、総世帯数477戸（平成17年7月現在）であり、読谷村の19ある集落の中では平均的規模である。

2 . 社会、経済的条件

(1) 地域産業、経済の状況

主な産業は農業の他、加工・食品産業、観光業、建設業、米軍関連業で、村面積の45％は米軍用地である。渡慶次集落の耕地面積は20haで、主要作物は、サトウキビ、芋類を中心に、最近では生産基盤が整備され、かん水も可能となったことから、花き（きく）、パパイア、ゴーヤー、インゲンなどの施設栽培も盛んに行われている。

第 1 図 位置図



白地区 KenMap の地図画像を編集

第1表 地区の概要

事 項	内 容
地区の規模	集落の単位(1集落)
地区の性格	地縁的な集団
農 家 率	9.6% (内訳) 総世帯数 426戸 農 家 数 41戸
販売農家数	20戸 (内訳) 専業農家 4戸 兼農家 3戸 兼農家 13戸
主要農産物 農業産出額	花き類 54百万円 野菜類 22百万円 さとうきび 12百万円
農用地の状況	耕地計 20ha (内訳) 田 - 畑 18ha 樹園地 - 耕地率 19% 農家一戸当たり農用地面積 50a

(2) 交通

読谷村は、その中央部やや東寄りに、国道58号線が南北に抜け、南隣りの嘉手納町付近から、西側に県道6号線が、村の主な集落を抜ける形で西側外周を回り込んで北上し、恩納村に入り再び国道58号線に接続している。

県庁所在地的那覇市からは28kmと近隣であり交通の条件は良好である。

■ むらづくりの概要

1. 地区の特色

渡慶次集落は、読谷村の北側に位置しており、海岸線から緩やかに丘陵地帯（海拔40～60[㍎]）へと続く地形で、集落から西に東シナ海と慶良間諸島を望み、天気の良い日は、海への日没を間近に見ることが出来る。

土壌は、琉球石灰岩を母岩とする「島尻マージ」（サンゴ石灰岩を母材とする暗赤色土）で通気性・透水性に優れているものの、保水性に乏しいため干ばつの影響を受けやすい性質であるが、前述した基盤整備等により現在では克服されている。

歴史的には、第二次世界大戦で我が国唯一の熾烈な地上戦が行われた沖縄に於いて、米軍の上陸地点に隣接していたことから、集落は壊滅的被害を受けた。

戦後長らくして、飛行場を含む軍用地が昭和51年に返還されたが、一部は未だに軍用地として使用されている。

また、文化面においては、先の戦争で約50年間途絶えたままになっていた伝統芸能の組踊りを、青洋会（老人会）の面々が聞き取りを重ね、昭和48年に復活させるなど、その復興や伝承にも力を入れている。

2. むらづくりの基本的特徴

(1) むらづくりの動機、背景

ア 戦前、戦時中の状況

戦前の渡慶次集落は、のどかな農村地帯であり、農地はサトウキビを中心に、甘藷や粟が栽培され、畜産も規模は小さいながら、農耕馬・牛・豚・ヤギなどが飼育されていた。また、海は青く、魚が豊富で、本島各地を結ぶ船の寄港地として栄えていた。

しかし、この風景も、昭和20年の第2次世界大戦における米軍の侵攻により一変した。米軍は上陸してすぐ当集落を占拠し、ブルドーザーで敷きならし、本土決戦に向けて飛行場を建設した。このことにより、本島北部に疎開していた集落住民は、戦争が終わっても帰るところがなく、散り散りに生活せざるをえなかった。

イ 集落への帰還

昭和20年に終戦を迎えたが、集落は米軍に占拠され、すぐには帰還できなかった。米軍から当集落への移住許可が下りたのは、昭和22年のことであった。住民

は協力しながら焦土と化した土地に山林から伐採した木材や、米軍の廃材を用いて簡易住宅を整えていった。そして住環境の整備が進むに従って、散り散りになっていた住民も徐々に集落へ集まってきた。

しかし、米軍は翌年（昭和23年）、住民に対して期限がたった7日の立ち退き命令を下し、従わざるを得ない住民は、家屋を解体・運搬し近隣の集落に移動したのだった。この措置により、立ち退き先から戻らず、移動先にそのまま住み着く者も出る有様であった。

その後、村の関係者や区役員の強い要請により、やっと集落に戻れたのは終戦から8年後の昭和27年のことであった。

ウ 戦後の復興と現在に至るまでの経過等

集落復興は緊急かつ重要課題であったが、廃墟の中から復興するのは並大抵の努力で成し得るものではなかった。そのような中で、郷里に愛着と誇りを持っていた住民の団結と士気は高く、中でも、集落の将来を見据えた道路整備にまつわる逸話は、それを如実に物語っている。戦前の渡慶次は、集落道路が狭く曲がりくねっているなど、荷馬車が1台通れる位の幅員しか無かった。そこで戦後すぐに、広く安全な道路を造るための取り組みを始めたが、土地の無償提供が前提であったため、地主の異議は勿論、道路の延長上に家屋が在る者については土地や屋敷を分割したり、削られることに当然ながら反発も相当にあり、その説得は困難を極めた。

しかし、地域再建振興会は理想の実現に向け、村内外の地主を一件ずつ訪問してねばり強く説得を行い、ついには碁盤目状道路を完成させた。また、その整備作業に於いても、可能な所から区民総出で行うなど、ユイマール「協調・和衷（わちゅう）・助け合い」の精神が見事に具現化されていると言えよう。

このように、集落の誰もがユイマールの精神で、あらゆる面からむらの復興に取り組む必要性を強く感じ、問題解決に対する熱意と意識の高さと、厳しい状況の中でも、常に話し合い合意形成を図るねばり強さで、戦後の環境整備を進めた。また、コーラルで敷き詰められた返還軍用地には、補助事業により農地や水を確保し、生産環境の整備を進めた。

戦後の復興とともに、自治会の活動も活発になり、産業組合（後の農業同好会）や体育振興会、婦人会などの組織が農業振興、住環境の整備、生きがいづくりなどに精力的に取り組んだ。各組織は個々の活動を強化する一方で、相互に交流し、刺激し合い、地域の復興と活性化を推進した。

第2表 むらづくりに関する年表

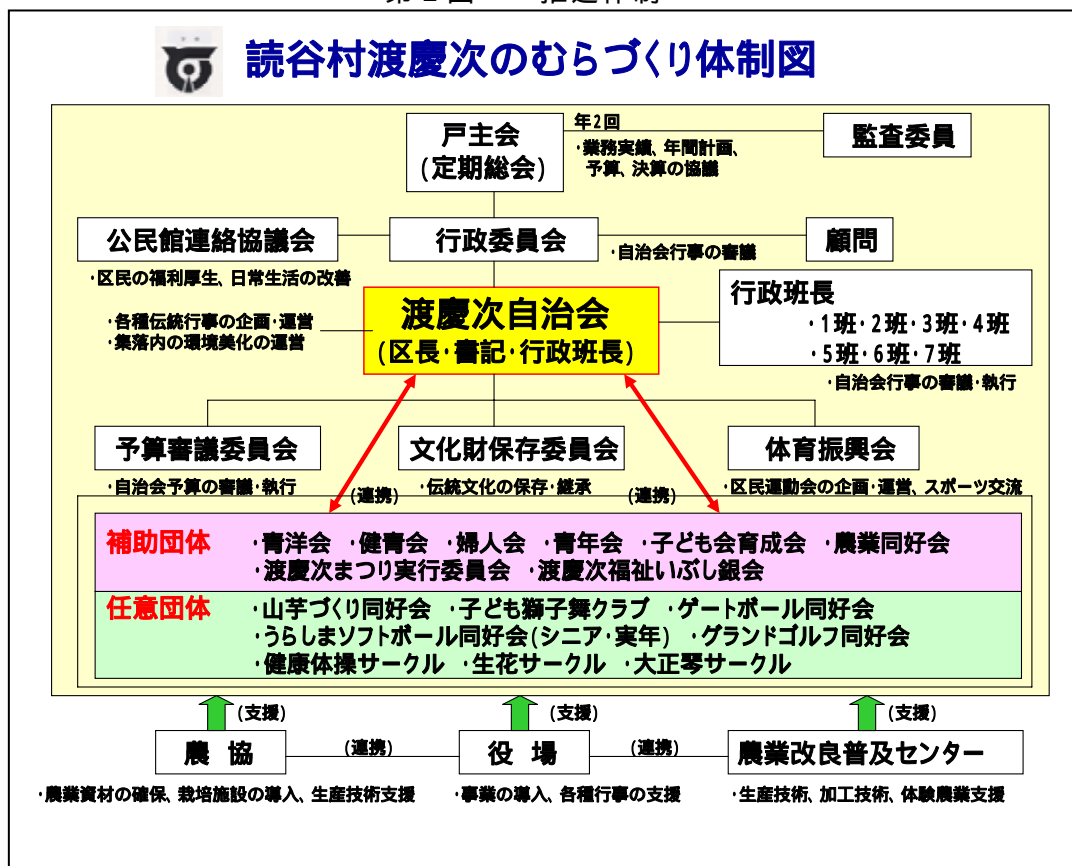
西暦	事項
1637(崇禎10・寛永14)	渡慶次村に南蛮人(宣教師ゴンザレス)日本への布教の為に漂着
1919(大正8)	婦人会発足(初代会長前之上池の山内マシさん)
1920(大正9)	渡慶次産業組合発足(農業同好会の前身)
1945(昭和20)	第二次大戦も激烈を極め部落民は二月より国頭へ避難が始まり、三月に軍司令部より立ち退き命令が出る
1947(昭和22)	自治会組織が戦後のスタート、少年自治会(子ども会の前身)発足
1952(昭和27)	渡慶次部落への移動許可。それに伴う青年会による敷地の整備作業開始。割当土地の小作料を所有者に支払い開始。
1955(昭和30)	道路拡張工事完成祝賀会。出産祝忘年会の合同祝賀会を開催(仮装行列)
1964(昭和39)	渡慶次青洋会(老人会)発足
1969(昭和44)	第1回渡慶次区民運動会開催
1974(昭和49)	4字連合のボーローポイント返還軍用地主会結成
1976(昭和51)	軍用地(ボーローポイント中地区)の返還
1979(昭和54)	渡慶次公民館報第1号発刊(現「こうみんかんだより」)
1983(昭和58)	渡慶次字章の制定
1984(昭和59)	第1回渡慶次まつり開催(部落共進会から名称変更)
1988(昭和63)	渡慶次地区土地改良事業の竣工
1991(平成3)	渡慶次デイサービス活動開始(現渡慶次いぶし銀会)
1999(平成11)	渡慶次子ども獅子舞クラブ博報賞受賞祝賀会
2000(平成12)	婦人会80周年記念式典及び祝賀会。記念誌発刊、記念碑除幕
2004(平成16)	地縁団体(法人格)取得
2004(平成16)	第10回山芋づくり同好会10周年記念式典及び祝賀会。記念誌発刊。「山芋スープの歌」が披露される

(2) むらづくりの推進体制

ア むらづくり推進のための運営状況と構成員の参加状況

むらづくり活動は、村内で唯一法人化された自治会が中心になり、全員参加のもとで行われる。組織は区長を中心に行政委員会、行政班長、予算審議委員会、文化保存委員会、体育振興会や相談役の顧問会、全戸参加による戸主会が明確に区分されており、その下部組織として補助団体の農業同好会、青洋会(老人会)、婦人会、青年会、子ども会育成会、健青会、いぶし銀会や、任意団体として山芋づくり同好会、子ども獅子舞クラブその他を設置するなど、体系だった推進体制と役割分担により、多様で個性的なむらづくりを実践している。

第2図 推進体制



イ 団体の紹介

伝統芸能の盛んな沖縄に於いて、ここ渡慶次集落にも文化保存委員会のもとに芸能保存会があり、その中で伝統芸能、棒術、獅子舞、組踊り等が着実に継承できるよう活動を行っている。

農業同好会は、大正9年に産業組合として結成されその後、組織改編を繰り返し今に至るが、作物の生産振興、渡慶次まつりの準備、渡慶次まつりに出展された農産物及び加工品の審査、環境美化、子ども農業体験学習支援、全区民対象の産業視察など多岐にわたる活動を展開している。

子ども会育成会は、地域の子どもの健全育成のため活動しているが、その運営は「人を思いやり、地域を愛する心豊かなたくましい子どもの育成」をスローガンに、父母は勿論、農業同好会、婦人会などの協力も得ながら行っている。

山芋づくり同好会は、29人の会員で構成する任意の組織である。村内の山芋スーブ(重量競争)の先駆者となり、現在、7集落に波及している。集落の内外から多くの参観者で賑わう大きな催しである。

各種団体の役員は独自の予算や計画に基づき、その執行に当たるが、互いに綿密に連携し、むらづくりの推進役を担っている。

例えば、区民運動会の主催は体育振興会であるが、班長会、青年会、健青会など

が積極的にサポートしている。具体的には、婦人会が昼食用に、来客等を含む総勢800人分のカレーライスの炊き出しを行うなど、各団体がそれぞれの立場で役割をこなし、イベント等をみんなで盛り上げていく体制が確立されている。

渡慶次まつりは当該実行委員会の主催で行われるが、その準備や展示、審査には農業同好会をはじめ、子ども会育成会、婦人



写真1：婦人会による菓子の販売

会、老人会、山芋づくり同好会など多くの組織が係わって実施される。舞台発表では140人の区民が参加し、2日間の催しを盛り上げる。

ウ 市町村、農林漁業団体等関係機関、団体との関係

本集落への役場からの行政上の業務は区長を通して行われる。村と集落の連携は非常に良く、村の施策は集落へ円滑に伝達・実行され、集落の要望事項は速やかに村行政へ反映されている。役場とは行政上の事務連絡、渡慶次まつり、事業の導入、花壇用苗の提供などで密接に連携している。

また、JAとは土づくり、農業資材の確保、栽培施設の導入、栽培技術支援などで深い係わりをもっている。普及センターとは地域農業振興総合指導事業を通してむらづくりを推進するとともに、生産技術、加工技術、子ども会の農業体験学習に関し支援を受けている。

■ むらづくりの特色と優秀性

1. むらづくりの性格

(1) ユイマール「協調・和衷（わちゅう）・助け合い」の精神

渡慶次集落には組踊りや獅子舞などの伝統芸能や渡慶次まつり、区民運動会などのイベントがあるが、全区民をあげての活気に満ちた催しとなっている。渡慶次まつりは、それまで個別に開催されていた、産業振興会・出生祝・十五夜等の行事を一括して行う行事としてスタートし、今年で21回目を迎え、その内容は年々充実し、規模も拡大してきている。この祭りに向けて、多くの農家が切磋琢磨しながら農作物を栽培し、共進会でその出来具合を競うことで地域農業の発展に大きく貢献している。また、地元住民と集落外の住民との交流の場ともなり、地域活性化の推進役としての役割も果たしている。渡慶次まつりを参考に、別の集落でも祭りを開催する事例がでてきており、「渡慶次」の名を発信する広告塔的な役割を果たしている。

区民運動会は今年で37回目を迎え、地域住民の健康増進を図る上でも大事な催しである。婦人会や老人会などの踊りも披露され、地域の伝統芸能の継承の場ともなっている。これを通し、地域住民が運営方法、選手選考などについて話し合う場面

も増え、上位入賞を目指して団結心も強化されている。

また、先に述べた戦後復興時の集落内道路整備にも見られるように、沖縄の特徴であるユイマール「協調・和衷・助け合い」の精神が特に渡慶次集落は強く、このような地域活動や組織間の連携体制のもとで、区民の地域への愛着心や誇りにする心が育まれており、地域における定住促進に大きく寄与している。

(2) 伝統芸能や体験農業の次世代への継承

当集落は、獅子舞や三線（さんしん）などの伝統芸能において子どもの組織化もなされており、中でも特に子ども獅子舞クラブは、県内各地や県外（東京、大阪、鳥取）と交流行事に参加しており、後継者育成や青少年の健全な育成の場となっている。平成11年には、このような活動が評価され、財団法人・博報児童教育振興協会主催のコンクールで「博報賞」を受賞している。



写真2：子ども獅子舞の披露

また、子ども会では、村特産の「紅イモ」やニンジンを植え付けから収穫まで体験させることで農業にふれあう機会を創出している。

(3) いきがいの発信（伝搬・拡大・発展）

本集落は各種団体や組織が活発に活動し、その活動自体が生きがいであり、むらづくりの原動力となっている。中でも、山芋づくり同好会はその中心的な組織で、会員の「生きがいづくり」を目的に結成されている。活動は「夫婦同伴」を原則とし、集落の山芋スープ（重量による勝負）の全島大会に備え、種芋の準備から植え付け、栽培管理、収穫まで、切磋琢磨しながら共同作業であたっている。この活動は、渡慶次集落のコミュニティ活動の「シンボル」となっており、「生きがいづくり」や「男女共同参画」のモデルとして高く評価され、平成16年には10周年記念フォーラムの開催、記念式典および祝賀会、記念誌の発行が行われるなど、単なる生き甲斐の枠を超え、今後の発展が期待される。また、村内外にもこの手法が取り入れられ、相乗効果を生んでいる。



写真3：山芋スープで優勝！

２．農業生産面における特徴

(1) 生産基盤の整備と新規作物の導入

渡慶次集落は従来、前述した土壌「島尻マージ」の性質上、小規模な有畜複合経営が行われていた。

昭和５０年以降、農用地指定懇談会（長浜ダム建設計画）に端を発する土地改良事業等により生産基盤が整備され、かん水が可能となったことから、サトウキビの一部を転換してキク、パパイア、ゴーヤー、インゲンなどの新規作物を導入し、ハウス栽培による生産が盛んとなった。新規作物に関する展示ほ場の設置や現地検討会、講習会の実施等、産地形成に向けての取組を行ったことで、現在では産地として定着している。サトウキビの反収も５.２ｔから８.６ｔ



となり、県平均５.０ｔよりも高くなっている。写真４：らせん仕立てのパパイアハウス
このように、渡慶次集落の平成７年の農業産出額は９０百万円から平成１６年には１５８百万円と約１.５倍に伸びており、新規就農者もインゲン４戸（Ｉターン１名、Ｕターン３名）、パパイア２戸（Ｕターン）と増えているなど、農業の発展が地域活性化に大きく寄与している。

３．生活・環境整備面における特徴

(1) 環境美化活動を通しての住環境の整備

環境整備に於ける協力体制は現在にも受け継がれており、現在、自治会主体で年４回、区民全員が参加して清掃が実施されている。

中でも、渡慶次婦人会は、環境美化を重点目標の一つとして、ゴミ減量化、古紙回収、運動広場前の花壇づくりに取り組んでいる。ほかにも多くの組織や個人が環境美化活動に取り組んでおり、集落内は常にきれいに整備され、運動広場前の花壇をはじめ、年間を通して色々な花々が鑑賞できる住環境となっている。



子ども獅子舞クラブは、空き缶の回収やプレスを行い業者に販売し、活動資金に充てている。この活動を通して、子供達にゴミの減量化や再利用意識が芽生えている。

写真５：婦人会による清掃活動

平成１４年には、渡慶次婦人会のこれまでの活動が評価され、みどりの愛護週間の一環として行われた環境美化コンクールで、「国土交通大臣賞」を受賞している。

(2) 高齢者が輝くむらづくり

本集落は、65歳以上の高齢者が約18%を占めており、青洋会(老人会)をはじめ、農業同好会や山芋づくり同好会で活発に活動している。自らの経験とこれまで培ってきた技術を活かしたグループ活動は、高齢者の働く場の創出や生きがい活動へ繋がっている。また、渡慶次福祉いぶし銀会が中心となって「ゆいまーる共生事業(ミニ・デイサービス事業)」を行っており、一人暮らし老人や身体障害者等に対しての健康チェック、さらにレクレーション、世代間交流会、カジマヤー祝(数え97歳のお祝い、当人が風車を持つところからこう言われる)等、多岐に渡る「ボランティア活動」を繰り広げている。地域で支え合う体制の下で、若いボランティアも育成されるなど、高齢者が安心して暮らせる優しいむらづくりに繋がっている。

(3) 男女が共に築くむらづくり

本集落は、各種団体や組織が活発に活動しており、その活動自体が生きがいであり、むらづくりの原動力となっている。山芋づくり同好会はその中心的な組織で、会員の「生きがいづくり」を目的に結成されている。活動は「夫婦同伴」を原則とし、集落の山芋スーパ(重量による勝負)全島大会に備え、種芋の準備から植え付け、栽培管理、収穫まで、切磋琢磨しながら共同作業にあたっている。

また、婦人会を中心にシソ、ハンダマ、赤ウリなどの地場野菜の栽培、販売も行っている。平成16年に開催された山芋スーパ同好会主催の10周年記念フォーラムでは、山芋加工展示会も行われ、婦人会から49点の山芋料理が出展されるなどイベントに華を添えた。婦人会が担う地産地消活動や、夫婦でつくる「山芋スーパ」は、今や渡慶次集落のコミュニティ活動の「シンボル」となっており、「生きがいづくり」や「男女共同参画」のモデルとして高く評価されている。

第 3 表 年間予定行事一覧

項目	渡 慶 次 自 治 会	文 化 財 保 存 委 員 会	体 育 振 興 会	農 業 同 好 会	山 芋 づ く り 同 好 会	青 洋 会	渡 慶 次 い ぶ し 銀 会	健 青 会	婦 人 会	青 年 会	子 ど も 会 育 成 会	子 ど も 獅 子 舞 ク ラ ブ
4 月	山マーイ、 事務引継	字清明祭 三月御祭	村男子リ フボール	定期総 会		役員研修	ふれあ い総会		リーダー研修		農業体 験学習	空き缶プ レス、三線 教室(週 1回)
5 月	行政委員研 修、区民一 斉清掃、決 算総会	カンカー 祭、甘藷 御主祭、ア ブシパレー	村女子リ フボールテ ニス・サッカ ー女子バスケ	産業視 察		芸能大会	ボラン ティア 研修受 入	シング アチ ヤー	美化作業			
6 月	父の日リ フボール大 会、慰霊 祭	五月御祭	村夏季 大会(5 種目)		農休日	ゲートボ ール大 会、村 ゲートボ ール			玄米みそ 講習	角力大 会	学事奨 励会	
7 月	区民運動 会	六月御祭 井の御祭 委員研修	村夏季 大会(7 種目)			社会見学	健康講 話		ひまわり学 級、運動会 カレー炊き 出し		慰霊祭 参加	空き缶プ レス
8 月		旗スガ シー、カン カー祭		祭り用 花の ポット植 え	視察研 修	読老連グ ランドゴルフ	転倒予 防の勉 強会	奉仕作 業	美化作業、 ひまわり学 級	エイ サー	ラジオ体 操、夜間 補導	与論島交 流会
9 月	敬老会	ボージヌ御 願、八月 御祭獅子 又御願	村陸上 競技	タマキ 播種		読老連リ フボール大 会、社会 奉仕日	米寿合 同祝		ひまわり学 級		エイサー お楽しみ 会ビーチ パーティー	エイサー バザー
1 0 月	渡慶次まつり	組踊発表 (大川敵 討)、大御 願	祭ゴゴル フ、ゲート ボール	祭り花 の装飾		字グランド ゴルフ大 会、祭り 芸能発表	10/10 空襲か ら60年 を語る	祭り芸 能発表	祭バザー、 ひまわり学 級、祭り芸 能発表	祭り芸 能発表	農業体 験学習 芋掘り	空缶プレ ス
1 1 月	読谷まつり、共進会 出品	カママー イ	村駅伝 大会、区 民ソフト 大会			読老連グ ランドゴルフ	社会見 学		社会見学、 ひまわり学 級		グリーン・グ レシャス、 農業体験 学習	読谷祭 り、獅子 舞出演、 祭バザー
1 2 月	区民一斉 清掃			タマキ の苗配 布	山芋 スー プ		ボラン ティア の集い	奉仕作 業	園芸の集 い		クリスマ スパー ティー	
1 月		解御願				生年合同 祝					ホーリング 大会	正月獅子 舞公演
2 月	予算審議	初御願		馬鈴薯 審査		村長杯グ ランドゴルフ	生年合 同祝		予算審議		県外交 流	ホーリング 大会
3 月	定期総会、 役員選出、 区民一斉清 掃			総会	初越し	役員選挙 総会	ボラン ティア 視察研 修	総会	定期総会		卒業生を 送る会、 農業体 験学習	総会3年 生を送る 会